Long Term Projects でつなぐ導入期の授業デザイン

名古屋大学教育学部附属中・高等学校

木下 雅仁

Class to Class Letter
NEW CROWN
授業通信

■はじめに

平成14年４月，中学校においてはいよいよ改訂された学習指導要領が実施される。それに対応して改訂された教科書においては，以前のそれと比較すると内容が大幅に削減されていることから，学力低下を招くのではないかと憂う声が日増しに大きくなってきている。文部科学省は，学習指導要領は１つの「最低限度」を示した「基準（標準）」であり，その内容を「一通り」押さえておけば，学習指導要領の「枠」にとらわれず，それに加えて弾力的かつ自由に学習内容を発展させてもよい，との見解を述べているようだ。このことは，われわれ現場の教師には一定の自由裁量権が与えられ，教科書の活用をベースに据えた上で，自由に学習内容を発展させてもよいということになるのだが，実際にはそう単純な話ではない。具体的な学習方法や授業内容を検討する上では，「何を」「どこまで」やればよいのかを見定め，大いに工夫を凝らす努力が要求されることになろう。

本稿で紹介する中学１年生時におけるLong Term Projectsの授業実践は，こうした問題に柔軟に対応するための１つの方策となり得るのではないかと筆者は考える。教科書内容の学習と並行して様々なproduction活動を網羅的に行い，１年間の授業シラバスをデザインすることによって持続的に学習の動機付けを高めようとする授業実践の一端を以下に概説してみたい。

■導入期における「英語学習スキル」育成

これまで，英語の教科書はどちらかというと「文法シラバス」的に言語材料が配置されており，be動詞から一般動詞へ，あるいは，新しい課では前課における既習語彙を取り入れるなどのように「易から難」へとあくまでも言語材料にこだわった内容構成がなされていることが多かった。また，いくつかの高等学校の教科書ではよく見られることであるが，各課でコミュニケーション論，スポーツ，異文化，外国事情，物語（文学），伝記，環境問題などのバラエティに富んだ題材や話題が用意されているものの，その反面，個々の課の内容を相互に関連させ，系統性を持たせることは困難な場合もあるように思われる。

そこで筆者は，英語学習の導入期である中学１年生の授業においては，この１年を中学校３年間のスタートの１年目と考えようとも，本校のように高校へ進学することを前提とした中高６年間のスタートの１年目と考えようとも，「知識的な学習内容」よりもむしろ，「学習スキル」的なものを身につけることに重要性があるのではないかと考えた。ここでいう「学習スキル」の具体的な内容は多岐にわたるが，いくつか主なものを抽出してみると次のようになろう。

- **英語辞書の活用の仕方（辞書指導）**
- **文字と音声との関係（フォニックス的な指導）**
- **発音の仕方や区別に関わる基本的発音技能や知識**
- **イントネーションやアクセントなどを中心とする音声指導**
- **eye contactやfacial expressionを中心とするcommunication skills**
- **劇やスキット，レシテーションを含む創作活動とその成果の発表**
- **手紙や自己紹介文を手始めとするcreative writingの活動**
- **異文化理解（国際理解教育・開発教育）につながるインターネットやコンピュータを活用した表現・調査活動**

・まとまった英文を聴き，内容把握・情報収集活動だけに終わらない主体的リスニング力の養成

こうした「英語学習スキル」の素地を，様々な角度からのアプローチによって身につけさせるためには，どのような工夫が必要か検討した。その結果，幅広い英語の知識や運用力を活性化させるようなproduction活動(Long Term Projects)を，１年間にわたって網羅的に配列するシラバスをデザインし，教科書内容の学習と並行して多様なProject型の活動にクラス全体で長期間取り組んでいく実践を行った。

■ Long Term Projects実践を支える理念

巷の授業実践報告では，教科書の内容を離れて，いわゆる「投げ込み教材」や「投げ込み活動」に取り組んだ例を目にすることがある。筆者自身も教科書内容の学習に行き詰まりを感じると，映画や歌，インターネットを散発的に授業に取り入れたり，国際交流や異文化理解に関連する活動，あるいはスキット・コンテストや暗唱大会などのような「イベント」方式の授業実践を行うことがこれまでに何度もあった。

しかし，特別に何時間か時間を割いたり，定期テスト後に余った授業時間を利用したりする単発的な「イベント」方式の取り組みでは，教科書の学習の流れを分断することになる上に，教科書の各課の内容との系統性や連関性が薄くなるという問題が生じる。筆者は，生徒にとっては，このように一過性の強い活動に基づく授業は，最終的には「印象に残る学習体験」にはなっても，「知識や技能の積み上げ」にはなりにくいのではないかと考える。

そこで，筆者はここ３年間は毎年中学１年生を担当し，Long Term Projectsを通じて１年間の授業を「つなぎ合わせた」シラバス・デザインを作り上げ，それにしたがって授業作りの実践を行っている。毎時間，その時期に学習している教科書の内容やターゲットにしたい「英語学習スキル」に関わる活動を短時間取り入れ，ミクロ的には１時間の授業を「プロジェクト」と「教科書内容」の二部構成にする。マクロ的に１年間の授業シラバスを眺めてみると，Long Term Projectsで個々の授業をつなげつつ，様々な「コミュニケーション・スキル・トレーニング」に網羅的に取り組んでいくという「仕掛け」を用意し，生徒たちに対する学習の動機付けを長期的に高め，そして維持しようと試みている。

その際，教科書内容の学習をネグレクトせず*NEW CROWN* の題材を最大限活用し，知識面は教科書を用いて堅実にbuilding upしながら，Projects を通じてスキル面でどんどんと“＋α”のインプットを生徒たちに与え，「知識面」と「スキル面」を両輪とするバランスの取れた言語学習を目指した取り組みが軌道に乗りつつある。（具体的な内容についてはp.4の《Long Term Projectsでつなぐ１年間の活動実践例（中学１年生）》を参照されたい。）

■各プロジェクトにおいて習得を目指すスキル

それぞれのLong Term Projectにおいては，生徒に習得してもらいたい具体的なスキルを念頭において実施することになる。以下に個別のプロジェクトごとに解説していくことにする。

①**「ちょっとお気に入りの一品～Show & Tell Ⅰ～」**および②**「英語で自己紹介をしよう！」**においては，「発表原稿を作成する力（英作文力）」「原稿を音読練習し，発音・アクセントなどを洗練する力（スピーキング力）」「発表原稿集を読み，内容を鑑賞する力（読解力）」「友だちの発表を鑑賞する力（聴解力）」「英和辞典・和英辞典の活用力」などが獲得されることになろう。

③**「インターネットは世界を結ぶ～異文化紹介プロジェクト～」**を通しては，「コンピュータやインターネットの操作知識の獲得」「インターネット上での情報検索能力」「ウェブ上の情報解釈力（英文読解力）」「ポスター発表によるプレゼンテーション能力」などを獲得することが期待される。

④**「スキット・コンテスト」**と⑤**「名声優を目指せ！～ラジオ・ドラマ製作～」**の両プロジェクトの特徴は，グループによる準備と発表を行う点である。ある程度個人レベルで基本的な英語学習・運用スキルが定着したら，グループによる協同学習のステージに入る。ここでは，スピーキング練習のまとめとして，子音を中心

とする音素の正確で流暢な発音，音の連結，アクセントやイントネーションに至るまで，細部に渡ってスピーキング力を磨き上げる。また，eye contactやfacial expressionなどの自然なコミュニケーションに求められるmannersについてもトレーニングする。加えて，グループごとに工夫して衣装や小道具，効果音などを用意した上で発表会を行うことによって，楽しく英語を使った活動に取り組む姿勢と創造力を養う。

⑥**「笑いの英語学習 English Riddles」**においては“Q: What is the capital of England?”(A: The letter E is.) のような英語のriddlesや言葉遊びを楽しむわけであるが，正確に発音しないと聞いている方には伝わらないし，聞く方においても静聴しないとなぞなぞ自体が把握できないので，accuracyにこだわったこの上ないintensive listening /speakingの絶好の機会となろう。

⑦**「日本文化紹介～Show&Tell Ⅱ～」**においては，①～⑥のLong Term Projectsおよび年間の総合的な学習成果の確認を兼ねて，再びShow and Tellの活動を行う。題材選びや原稿作成から発表まで，speaking/listening/writing/readingの４技能においてバランスのとれた英語運用力が求められる。

■協同学習としてのLong Term Projects

ところで，このLong Term Projectsの運用にあたっては，次のような点に注意している。

①クラスの生徒全員が共通の課題に同じ時期に取り組む。
②教科書の題材に話題提供のネタを求め，授業で学習したテーマやコミュニケーション技能との関連性を協調する。
③作業は，基本的に授業外の時間を使って個々の生徒が家庭で準備を行う。
④クラス全体の場でなんらかの発表の機会を持ち，生徒たちが相互に評価し合ったり鑑賞し合ったりして，フィードバックが必ず得られるように工夫する。
⑤必ず全員が取り組み，全生徒のProject 課題完成をもって次のProjectへ移る。

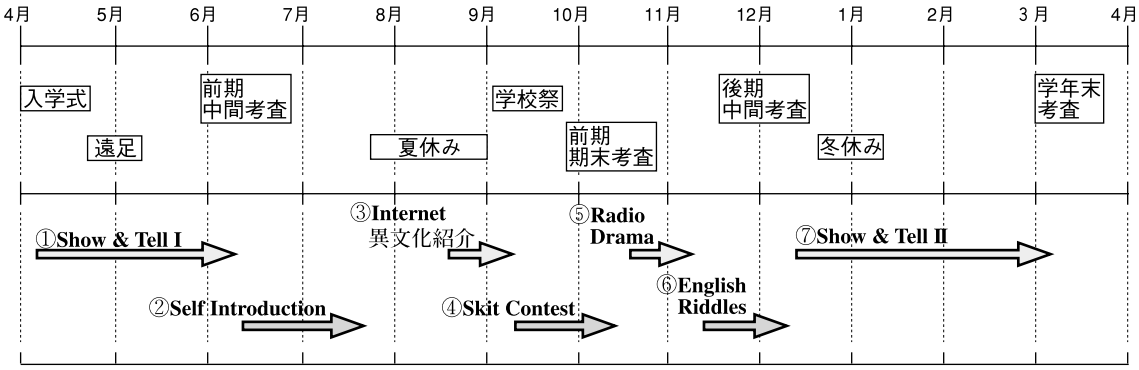
昨今の教育界では個性尊重や個別指導・対応など,「個」を重視する観点がもてはやされる風潮がある。ところが，このLong Term Projectsの取り組みは，ある種の「協同学習」であると筆者は考えている。先述の通り，この取り組みでは「生徒たちに対する学習動機付けを長期的に高める」ことを意図している。一般に「動機付け」と言う場合，個人における到達度と達成感に主眼がおかれるが，これからの「共生の時代」には，集団で共に達成する喜びに基づく動機付け，他者を認め承認したり評価することに基づく動機付け，自分の責任を果たし他者に役立つ喜びに基づく動機付けなどの観点により注目していく必要があろう。その意味では，Long Term Projectsという連続的で恒常的な英語を使った協同活動を通じて，クラス集団にコミュニケーションを生み出し，それによって他人に影響を与えられることが認識できれば，取り組み方によっては英語の能力を高めるだけでなく人間教育にさえもつながると考えられよう。

■おわりに（Long Term Projectsの成果）

各projectにおいては，一人ひとりが個々の興味や関心のレベルと能力に応じて課題に取り組めばよいので，英語が得意な生徒も不得意な生徒も，各自のペースで悠々と取り組んでいるように見受けられる。生徒の自主性と主体性に委ねる部分が大きいが，生徒たちの間では「発表するときはもっとこうしたほうがいいよ」「あそこで調べれば載っているよ」「今日の放課後，ポスター描きを一緒にやらない？」などと，協同学習の過程で相互扶助のinteractionが盛んになっている。

また，授業におけるLong Term Projectsに感化されて，校外の英語スピーチコンテストに出場したり，NHKラジオ基礎英語を１・２・３をすべて聴取したり，あるいは,「自主勉強ノート」に英語で俳句を書きためて提出してくれたりと，どんどんと活動範囲と視野を広げている生徒も少なくない。自分たちの実生活の実態に即した内容を大切にするProjectsを連続的，かつ，系統的に行うことによって，きわめて有機的に学習した内容を吸収し，さらにそれを活用するレベルにまで足を踏み入れてくれる生徒が，今後さらに増えることを期待したい。

≪Long Term Projects でつなぐ１年間の活動実践例（中学１年生）≫



（注：この実践は平成９年度版NEW CROWN 1を使用しています）

(A)・・・所要授業時間　(B)・・・Target Skills
(C)・・・内容と方法　(D)・・・教科書との関連

①「ちょっとお気に入りの一品～ Show & Tell Ⅰ～」
“ I Have a Judo uniform ”

(A)：６時間。うち１時間は説明と準備。授業最初の15分使用。
(B)：Writing，Reading，Speaking，Listening
(C)：自分の宝物を持参し，簡単な英語で紹介をする。「なぜ好きなのか」あるいは「その品物にまつわるエピソード」について必ず触れること。
(D)：教科書pp.26-30，Let's Try 1，Lesson 4

②「英語で自己紹介をしよう！」“ Self Introduction ”

(A)：４時間。１時間は丸ごと英作文の作業に。残りは授業最初の各15分で発表。
(B)：Writing，Reading，Speaking，Listening
(C)：教科書のモデル文とALTのモデルを参考に。書いた後は読む練習をして，クラスの前で堂々と発表する。
(D)：教科書pp.31-33，Let's Try 2，Let's Write 1

③「インターネットは世界を結ぶ～異文化紹介プロジェクト～」“ Do You Like Festivals? ”

(A)：６時間。うち，２時間はインターネット検索に使う。
(B)：Writing，Reading
(C)：世界の好きな国や地域から１つの題材を選び，インターネットで情報検索をして，それをポスター化する。ポスター発表。
（例）「アフリカの楽器」「パリのエッフェル塔」「南極のペンギン」「韓国のロッテ・ワールド」etc...
(D)：教科書pp.34-37，Lesson 5

④「スキット・コンテスト」“ A Miller and a King ”

(A)：３時間。授業最初の各15分使用。
(B)：Listening，Speaking
(C)：４人一組でグループを作り，スキット発表と鑑賞。衣装や小道具も用意。
(D)：教科書pp.38-41，Let's Talk 2，Let's Listen 1，Let's Read 1

⑤「名声優を目指せ！～ラジオ・ドラマ製作～」
“ Alice and Humpty ”

(A)：４時間。授業最初の各10分使用。
(B)：Listening，Speaking
(C)：４人一組でグループを作り，ラジオドラマ風に声色や声の調子を工夫して，物語をみんなに聴いてもらう。
(D)：教科書pp.42-47，Lesson 6，Let's talk 3

⑥「笑いの英語学習 English Riddles」
“ English and Japanese ”

(A)：６時間。授業最初の８分。
(B)：Writing，Speaking，Listening
(C)：インターネットを使ったり，図書館で調べたりして，「なぞなぞ」を調査。英語のなぞなぞでもよいし，日本語のなぞなぞでもよいので，画用紙にポスターとして書き，一人ずつ発表。クラスで品評会をする。
(D)：教科書pp.48-55，Lesson 7，Let's Listen 2，Let's Talk 4

⑦「日本文化紹介～ Show&Tell Ⅱ～」

(A)：11時間。授業最初の６分。
(B)：Speaking，Writing，Listening
(C)：日本にしかない身近なものを紹介
(D)：教科書pp.88-89，Let's Read 3

◇三省堂英語教育・中学 別冊　◆2002年4月22日発行　◆編集・発行人　渡辺孝映
◆発行所 株式会社 三省堂　◆〒101-8371 東京都千代田区三崎町2-22-14　◆電話03(3230)9421
◆電子メール newcrown@sanseido-publ.co.jp　◆ホームページ http://www.sanseido-publ.co.jp/